

## 平成22年度 向日市競輪対策協議会議事録

**開催日時** 平成23年2月18日(金) 午前10時～11時

**開催場所** 向日市役所 大会議室

**出席委員** 久嶋市長(会長)、安田副市長(副会長)、安田府議会議員、荻野市議会議長、石原市議会副議長、丹野防災・環境問題特別委員会委員長、中村防災・環境問題特別委員会副委員長、安田区長会長、中村寺戸町連合自治会長、原田向日台連合自治会長、高橋向日市商工会会長代理、小林山城広域振興局副局長、斉藤乙訓土木事務所長、中野向日町警察署長代理(地域課長)、西川京都府総務部副部長、西村京都府総務部総務調整課長、丹治自転車競技事務所長

### 事務局

(向日市) 植田市民生活部長、五十棲企画総務部長、岸建設産業部長、物部企画総務部次長兼企画調整課長、三浦建設産業部次長兼都市計画課長、中村環境政策課長、山田環境政策課主幹、生野市民安全係長、石田主査

### 関係職員

(京都府) 中西自転車競技事務所次長、矢口同事務所庶務課長、藤原総務調整課主査

**傍聴者** 1人

**議 事** (1) 京都府からの報告  
(2) 競輪開催に伴う諸問題について

### 競輪場の開催状況について

自転車競技事務所 (競輪場の開催状況についての説明)

**委 員** 向日町競輪場には優秀な選手が在籍しているが、全国から他の

優秀な選手を集めてレースを開催し、売上増加につなげることはできないのか。

自転車競技  
事務所

向日町競輪場にはビッグスターの村上兄弟が所属しているが、村上兄弟が揃って走るのは、平安賞だけである。向日町競輪場のPRとなっているが、優秀な選手が走れば売上増加につながるかといった難しいところがある。効果的に活用できるよう取り組みたい。

委員

平成15年と19年に実施された特別競輪では、売上が前年に比べ増加しているが、特別競輪を継続して開催することはできなかったのか。また、平成15年と19年の売上には、大きな差があるが、これだけ売上が減少したということなのか。

自転車競技  
事務所

特別競輪は、年間10回程度開催されており、レベルの高いレースとなっている。特別競輪を開催すると4日間で140億程度の売上があり、平成19年度に開催された「共同通信社杯」では、4日間で130億円の売上があった。売上は大きいですが、多額の賞金や経費が必要となるので、収益が少なくなっている。かつては、特別競輪を開催すると、10億円程度の収益があったが、近年は売上自体が減少し、収益も低下しているため、開催のメリットが少なくなってきている。

会長

他に意見はございませんか。なければ向日町競輪場の開催状況についてのご質問は一旦終わらせていただいて、続いて向日町競輪事業検討委員会についてのご説明をしていただきたいと思います。

#### 《向日町競輪事業検討委員会について》

京都府

(向日町競輪事業検討委員会についての報告)

委員

国の事業仕分けの中で、競輪事業が検討されるべき事項となっていたと伺ったが、教えていただきたい。

京都府

事業仕分けの中では、JKAへの補助事業について議論されている。事業仕分けを受け、平成23年度からの補助金については、

透明性等の問題から、審査の過程をどうするのか議論され、見直しをされている。また、競輪事業のあり方については、経済産業省小委員会が設けられ、今後の競輪事業をどうしていくのかを議論されている。

委員

廃止となった場合、雇用、跡地の利活用、住民のニーズ等が検討課題になると京都府から説明があったが、選手会は存続のための署名活動等を熱心に行っている。京都府は選手会との話し合いはしたのか。

京都府

検討委員会で行った議論を踏まえ、選手会には説明をしている。検討委員会では、存廃を含めた議論をしているが、知事への最終的な報告や府として存廃についての判断がされていないので、現状では何とも申し上げにくい状況であるが、今後も引き続き選手会へ説明や真摯な対応をしていきたい。

廃止になった場合は、雇用や跡地の利活用といった問題について、地域の声も伺いながら、しっかりと対応したい。

会長

意見も出尽くしたようでございます。京都府におかれましては、この場で出ました意見ご要望を十分ご検討いただき、今後の競輪運営に当たって頂きたいと思っております。

それでは、本日の会議を終了させていただきます。皆様方におかれましては、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。ありがとうございました。